

総 括 表

展覧会の名称	ラファエル前派の軌跡展		
主催者の名称	三菱一号館美術館、久留米市美術館、あべのハルカス美術館		
開催施設の名称	三菱一号館美術館、久留米市美術館、あべのハルカス美術館		
補償期間	2019年2月15日から2020年1月15日		
開催期間	三菱一号館美術館 2019年3月14日～2019年6月9日 久留米市美術館 2019年6月20日～2019年9月8日 あべのハルカス美術館 2019年10月5日～2019年12月15日		
	合計約16万人 (内訳:三菱一号館美術館約8万人、久留米市美術館約2万人、あべのハルカス美術館約6万人)		
展覧会の概要	2019年が19世紀イギリスが生んだ偉大な思想家で芸術家でもあるジョン・ラスキンの生誕200年にあたることから、若きラスキンが擁護したターナーやラスキンの著作「現代画家論」に影響を受け彼を精神的支柱としたロセッティやラファエル前派同盟の結成メンバーの画家たち、そしてその流れを継承し、審美主義や工芸運動を推進したバーン＝ジョーンズやウィリアム・モリスの作品に、ラスキン自身が描いた水彩画を加え、約160点の油彩、水彩、素描、ステンドグラス、タピストリー、テキスタイルなどの作品で19世紀イギリス画壇で展開されたラファエル前派の軌跡をたどります。		
主な補償対象の美術品	「第1章 ラスキンとターナー」…ターナー作「カレの砂浜ー引き潮時の餌探し」1830年、油彩・カンヴァス、ベリ美術館蔵 「第2章 ラファエル前派同盟」…ロセッティ作「モネームシュネー(記憶の神)」1881年、油彩・カンヴァス、デラウェア美術館蔵 「第3章 ラファエル前派の流れをくむ画家たち」…アーサー・ヒューズ作「音楽の集い」1861～4年、油彩・カンヴァス、レイディ・リバー・アートギャラリー蔵 「第4章 エドワード・バーン＝ジョーンズ」…バーン＝ジョーンズ作「救しの木」1881～2年、油彩・カンヴァス、レイディ・リバー・アートギャラリー蔵 「第5章 ウィリアム・モリスと装飾芸術」…モリス商会作「格子垣(壁紙)」1862年、ブロックプリント・紙、ウィリアム・モリス・ギャラリー蔵		
美術品数	160 点 (うち海外から 156 点)	うち 補償対象美術品	146 点 (うち海外から 144 点)
美術品の総評価額	約170 億円 (うち海外から 約167 億円)	うち 補償対象額	約167 億円 (うち海外から 約165 億円)
入場料設定	1)三菱一号館美術館…当日券 一般1700円、高校・大学生1000円、小・中学生500円、前売券 一般のみ1500円 2)久留米市美術館…当日券 一般 1000円、大学生300円、高校生以下無料。前売券 一般のみ600円 3)あべのハルカス美術館… 当日券 一般1500円、高校・大学生1100円、小・中学生500円(いずれも検討中)		
補償制度の活用による主な国民的利益	以下の活動により国民的利益を供与する。 1)入場料の軽減あるいは一部無料化を検討中。 2)展示作品の質の充実…ターナーの代表的油彩作品を借用公開 3)教育普及活動の充実…講演会の開催、ジュニアガイドブックの制作、配布など検討中。		
主な安全配慮事項	作品の展示撤去には、海外からのクーリエと共に修復家の大原秀之氏(吉備国際大学文化財総合研究センター教授)の立ち合いのもとに、作品点検を行う。また、輸送にはクーリエと共に学芸員等も同乗し、走行中の安全に配慮する。開催中は、会場監視のために人員を配置し、温湿度、照度は、貸借契約に基づき、その基準を厳守する。		

1. 開催概要

展覧会名	ラスキン生誕200年記念 ラファエル前派の軌跡展	
開催施設名	会期	入場者数
三菱一号館美術館	2019年3月14日(木)～6月9日(日)	105,520人
●開催概要 19世紀英国の美術評論家ジョン・ラスキン生誕200年を記念し、英国人監修者のワイルドマン氏(元ランカスター大学ラスキン図書館・研究所長)とニューオール氏(美術史家)により企画された展覧会。 ラスキン自身の作品に始まり、ラスキンが擁護し名誉回復した同時代英国を代表する巨匠ターナー、思想的影響を受けた若きラファエル前派同盟結成メンバーのロセッティ、ハント、ミレイ等、続く第2次世代のバーン＝ジョーンズ、美術工芸運動を推進したモリスの多彩な作品群(絵画、織物染色、家具、室内装飾、書籍等)など約150点で構成。 「ラファエル前派」を取り上げた展覧会が過去多数ある中で、ラスキンという思想家を主軸に据えて、与えた影響や、ラスキンとの関わりの中から生まれた19世紀英国美術の多様なつながりを俯瞰し、一連の軌跡として紹介した展示構成が大変理解しやすかったとの来館者好評価を得た。		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

①入場料の無料化

通常小中学生の入場料500円のところを無料化した。計1,352人の小中学生が無料で鑑賞した。

②講演料の無料化

記念講演会「ラファエル前派の衝撃——ロンドンから東京へ」

日時・場所:2019年3月15日(金)14:00～15:30・コンファレンススクエア エムプラス「サクセス」

内容:本展の図録監修者である一橋大学名誉教授(言語社会研究科)・河村 錠一郎氏より展覧会の魅力や、ラファエル前派の芸術が日本におよぼした影響を含め幅広くご紹介いただいた。
参加者数:122名

③教育普及プログラムの一部無料化

(1)こどもの創造性を高める「ワークショップ&ギャラリーアクティビティ」

日時・場所:2019年5月26日(日)9:30～11:30・三菱一号館美術館

内容:開館前の美術館で作品をじっくり見て、他の参加者と対話しながら作品を鑑賞するアクティビティ。鑑賞後、「ラファエル前派の軌跡展」の出品作品を参考に自分や家族の写真を、マスキングテープやシール等を使用して19世紀、ヴィクトリア朝時代に活躍した「ラファエル前派」風にデコレーションするワークショップを行った。

(2)AI(Art&Inquiry)トーク

日時・場所:2019年3月25日(月)、5月27日(月)各回14:00～15:00(約1時間)・

内容:「ラファエル前派の軌跡展」の出品作品のなかから数点選び、「豊かさ」というテーマに沿ってアクティビティも交えながら鑑賞するイベントを行った。

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

特になし

4. 安全配慮に関する特別の対応

特になし

5. 紹介事例・今後の改善点等

特になし

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

三菱一号館美術館

●収入

内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入・その他の収入	11,804 万円
共催者負担	3,349 万円
収入総額	15,153 万円

●支出

内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	6,480 万円
設営・運営等会場関係経費	8,673 万円
支出総額	15,153 万円

1. 開催概要

展覧会名	ラファエル前派の軌跡展	
開催施設名	会期	入場者数
〇〇美術館	〇年〇月〇日～〇年〇月〇日	〇万人
久留米市美術館	2019 年 6 月 20 日～9 月 8 日	1.8 万人(18,445 人)
〇〇博物館	〇年〇月〇日～〇年〇月〇日	〇万人

●開催概要

※申請書に記載した当初の趣旨・目的等の達成状況について、データを提示しながら記入

本展は、久留米市美術館における初の大規模な海外展として開催した。企画内容のとおり、イギリスの美術批評家・ジョン・ラスキンと、ラスキンが擁護したロセッティ、ミレイ、バーン＝ジョーンズ、ウィリアム・モリスらの絵画や貴重な書籍、家具、ステンドグラス、タペストリーなど約 150 点を紹介した。会期中、台風の影響のため 2 日間が臨時休館となったものの、当初の入館者数目標 18,720 人にほぼ達する 18,445 人の来場者があり、来場者アンケート等から見て鑑賞者の満足度の高い結果を残すことが出来た。

さらに、本展を開催した久留米市美術館本館に隣接する石橋正二郎記念館において、会期中、ラファエル前派、特にバーン＝ジョーンズからの影響が顕著な久留米出身の画家・青木繁(1882-1911)の作品を展示したことで、本展の内容と地元の画家との関係性を紹介することが出来た。この当館独自の展示企画により、鑑賞者には本展のより深い鑑賞を促し、本館と記念館の来館者数を増やすことが図られた。

※展覧会評・レビューがあれば、その出典・要旨を提示し、展覧会の客観的な評価を記入

開催前の展覧会紹介では、『美術展びあ 2019』、『美術展びあ 2019-2020』、『婦人公論 2019.6.25』等の雑誌に数多く取り上げられ、展覧会概要が掲載された。

展覧会評としては、地元新聞(西日本新聞)において、8/1～22 の 5 日連続記事で、展覧会に登場する主要画家たち(ミレイ、ターナー、ロセッティ、バーン＝ジョーンズ、モリス)の作品が画像入りで紹介されたほか、8/6 の記事では「目玉の一つは、エドワード・バーン＝ジョーンズの《ペレウスの饗宴》。同市出身の洋画家青木繁(1882-1911)の《天平時代》と見比べると、人物の配置やポーズが似ている。(久留米市美術館本館と石橋正二郎記念館において)両作品が同時に鑑賞できるまたとない機会となっている」と紹介された。

また、来場者アンケートを 8/7～8/20 の 14 日間実施(327 件回答)し、「素晴らしい作品をたくさん見ることが出来た」「料金設定の割にとっても充実した展覧会でよかった」「人物相関図があつて分かりやすかった」など、展示内容や印刷物の充実に満足した声が多く寄せられた。

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

※申請書に記載した、補償制度活用による国民的利益(軽減された保険料の使途、効果等)の達成状況について、データを提示しながら記入

久留米市美術館においては、補償制度の活用により、次のとおり入場料を軽減し、教育普及活動を充実させることが出来た。

1) 入場料の軽減あるいは一部無料化

大型の海外展の入場料は通常、その予算規模に合わせて入場料設定が高額になるところであるが、久留米市美術館における他の巡回展・企画展と同額程度の、一般 1,000 円、シニア 700 円に設定することが出来た。さらに、若い世代の来館を促すため、大学生の入館料を通常 500 円のところを 400 円とし、高校生以下を無料とした。さらに、園内の文化ホールにおけるコンサート実施にあわせ、7/17 (水) と 8/18 (日) は 18:30 まで延長開館とし、17:00 以降の入館は無料に対応した。

2) 教育普及活動の充実

記念講演会を 2 回、ワークショップを 1 回開催した。さらに、夏休み期間中にあわせ、子ども向けのチラシやワークシートを作成・配布したほか、会期中、鑑賞を深めるための画家達の相關図のシートも追加作成した。

①記念講演会

2 回とも当初予定の定員 70 名を大きく上回る参加があり、大変好評であった。

・7/7「ラファエル前派と日本-驚きの軌跡」(一橋大学名誉教授・河村錠一郎氏): 参加者数 120 名

・7/25「アーサー王伝説とラファエル前派」(担当学芸員): 参加者数 105 名

②ワークショップ

・8/3「わくわく! パーン=ジョーンズのステンドグラスを完成させよう」(講師: 洋画家・瀬戸口朗子氏): 参加者数 16 名。完成した作品は会期中、石橋正二郎記念館 2 階ロビーに展示した。

③子ども向けのチラシ、ワークシート作成

会期が夏休みを含むこともあり、鑑賞を助けるための子ども向けのワークシートを作成した。また、夏休み前に子ども向けチラシを作成し、学校を通じて市内小中学校の全児童生徒に配布し、そのチラシは割引券とした。

④来場者へ人物相關図シートを配布

展覧会をより理解してもらうため、ワークシートの一部を再編集した人物相關図を作成し、出品目録とあわせて来場者へ配布した。

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

※ヒヤリハット事例とは、事故には至らなかったものの、事故となってもおかしくなかった一歩手前の事例をいう。文字通り突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの

特になし

4. 安全配慮に関する特別の対応

※事故を防止するために実施した特段の安全配慮(特に、輸送や梱包に関することや、展示に関して、他展にも参考となりうること)を記入

久留米市美術館における作品の安全な搬出入作業のため、搬入口に風雨を避けるための仮設の覆いを設置した。展示・撤収作業においては、複数の学芸員が作品が移動する動線上に立ち、常に作品の動きに注意を払いながら作業員への指示等に当たった。

5. 紹介事例・今後の改善点等

※国民の優れた美術品を鑑賞する機会の充実という観点から、主催者の自己評価等を記入。その際、他の美術館の参考となる好事例や改善点等を積極的に記入

久留米市美術館において、優れた海外作品を紹介する貴重な機会となった。久留米では海外の美術に接する機会が少ないという点を考慮し、鑑賞を助けるための人物相関図を作成するなど来館者サービスを充実させたことも、来館者の高い満足度につながったと思われる。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

久留米市美術館

●収入

内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入・その他の収入	916 万円
共催者負担	2,783 万円
収入総額	3,699 万円

●支出

内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	2,160 万円
設営・運営等会場関係経費	1,539 万円
支出総額	3,699 万円

1. 開催概要

展覧会名	ラファエル前派の軌跡展	
開催施設名	会期	入場者数
三菱一号館美術館	2019 年 3 月 14 日～2019 年 6 月 9 日	
久留米市美術館	2019 年 6 月 20 日～2019 年 9 月 8 日	
あべのハルカス美術館	2019 年 10 月 5 日～2019 年 12 月 5 日	42,595 人
●開催概要 「ラスキンが投げかけた思想の広がりが一望できる…群像劇のよう」(朝日新聞 12 月 3 日夕刊・田中あれ奈)な展覧会として複数媒体で取り上げられた。一般来場者アンケートの総合評価は、満足が約 78%、普通が約 16%、不満足が約 4%で、「ラスキンについて深く知ることができた」「絵画だけではなく、家具やタペストリーなどの作品も見られた良かった」「人物相関図を見ながら作品を鑑賞でき、面白かった」「見どころがたくさんありとても満足」と好意的な意見が多く寄せられた。不満足の理由として最も多かったのは、展示室内に撮影可能ゾーンを設けたことであった。来場者の傾向として、会期中の再来場率が同規模の企画に比べ 1.5 倍以上高かった。		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

●入場料の無料化・軽減等

増税に伴い 2019 年 10 月より、入場料一般 1,600 円、大高生 1,200 円、中小生 600 円と設定予定であったが、一般 1500 円、大高生 1,100 円、中小生 500 円のままとした。学生児童だけでなく一般も対象とした理由は、本展の入場者の 90%以上を一般と想定したため。ほぼ想定通りの比率となり、より広く多くの来場者に還元することができた。

●鑑賞機会の拡大

「たまご&ひよこ DAY」として休館日貸切り鑑賞会を実施。入館料は一般と中小生は当日料金より 200 円引き、大高生は 300 円割引とし、一般 1,300 円、大高生 800 円、中小生 300 円と設定した。展示室で気兼ねなく会話しながら鑑賞できるバリアフリーなイベントとして、マタニティやお子様連れのご家族に限らない来場があり、66 名が利用した。監視・警備人員などにかかる経費は軽減された保険料から充当した。

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

受け具(金属製L字金具)を他の作品のものと取り違えた事例があった。受け具には所蔵館による書き込みがあったが、展示番号などを書いたシールは剥がれたのか無く、先行会場の撤収時に取り違えて梱包したとみられる。先行館から引継ぎの写真や図示は貰っていたが、二点はよく似ており、作業前にクーリエと相互に確認した際も見落としていた。壁に固定した受け具に作品を仮置きした際、金具の長さが微妙に足りなかったことで取り違えに気付いた。そのまま作品の支えを外していれば受け具ごと脱落する可能性もあった。

4. 安全配慮に関する特別の対応

●巡回3館目ではあったが、立ち合いの担当者が先行館と異なる場合には状態とこれまでの展示方法の確認を重視。先の会場とは異なる方法を指示される場合もあったが、作品の保全とコミュニケーションを優先し、固定方法の再考や受け具の追加制作を行うなど柔軟な対応を心掛けた。

●会場内の撮影可能作品が分かり易いよう明確なゾーニングを心掛け、合わせてすべての作品に結界を設置した。特に混雑時、鑑賞者の流れが滞る様子があるときには、一時的に誘導スタッフの増員や巡回の強化をし混雑の緩和および作品保全に努めた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

当館は複合施設内にあること、高層階にあることから搬入可能な作品サイズが限られており、その情報は開催を決定した早期にコーディネーターや輸送業者に共有していたが、実際のクレートサイズが、事前に通知されていた数字と異なる作品があった。計画していたルートでは搬入できないため、所蔵先に国内でのクレート再制作を交渉したが認められなかった。先方の担当者の立ち合いを条件に別ルートでの搬入を承諾いただき、本作品は本制度による補償対象から外して搬入した。今後より綿密な情報共有を心掛けたい。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

あべのハルカス美術館

●収入

内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入・その他の収入	3,699 万円
共催者負担	0 万円
収入総額	3,699 万円

●支出

内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	2,160 万円
設営・運営等会場関係経費	1,539 万円
支出総額	3,699 万円

株式会社 アルティス

1) 三菱一号館美術館	2019年3月14日～6月9日	105,520 人
2) 久留米市美術館	6月20日～9月8日	18,445 人
3) あべのハルカス美術館	10月5日～12月15日	42,595 人
	合計	166,560 人

(9) 収支決算書

主催者名 共通基本経費

●収入

区分	内 訳	予算額
展覧会収入	【入場料】	万円
	【図録売上】 売価2300円×11000冊×0.80	2024(1760)
	【関連グッズ売上】 音声ガイド グッズ売り上げ 委託物品手数料	300(100) 1100(800) 300(200)
	【その他】	
その他の収入	【協賛金・寄附金】	
	【補助金・助成金】 三菱一号館美術館分担金 久留米市美術館 あべのハルカス美術館	6480(6480) 2160(2160) 3300(3240)
	【その他】	
	収入総額	15,664(14740)

●支出

区分	内 訳	予算額
企画準備等基本経費	【借用料】	1600(1900)
	【謝金】 監修者謝礼 作品点検料 原稿料・翻訳料	800(750) 200(120) 130(180)
	【保険料】	550(550)
	【輸送費】 国内輸送費 海外輸送費 【クーリエ等招聘費】	2500(1800) 4100(3800) 1900(2100)
	【図録制作費】 単価1200円×12000冊	1440(1300)
	【その他印刷費】 グッズ製作費	700(600)
	【企画構成費】企画進行費 巡回パネル等制作費 事務局経費・雑費 【その他(交渉費・職員旅費等)】 写真撮影・複写代 タクシー代 海外交渉費 国内旅費交通費 会議費・交際費	400(400) 200(150) 200(140) 100(100) 100(100) 400(500) 150(150) 100(100)
	【広告・宣伝費】	
	【展示施工費】	
	【会場事務費】	
設営・運営等会場関係経費	【監視・警備費】	
	【その他】	94
	支出総額	15,664(14740)